



### ふるさと日立検定 問題に挑戦!

問

池の川さくらアリーナの開館記念として寄贈され、平成29(2017)年に、公益財団法人日本花の会から新品種の認定を受けたさくらはどれですか。(答えは8ページへ)

- ① 日立紅寒桜
- ② ひたち雅
- ③ おぎつやよい

## CONTENTS

■第145回通常議員総会 …………… 2	■ふるさと日立検定 答えと解説 …………… 8
■令和6年度主要事業のポイントと予算 …………… 3	■相談所だより …………… 9
■常議員会／令和6年度事務局体制 …………… 4	■会議所インフォメーション …………… 10
■商工会議所の動き …………… 5	■国県市等からのお知らせ …………… 10・11
■優良会員紹介 …………… 6・7	■日商コラム／魂に響く書 …………… 12



発行所 ● 日立商工会議所 〒317-0073 日立市幸町1-21-2  
 発行人 ● 鈴木昇 購読料 ● 200円 (購読料は会費の中に含まれています)  
 TEL 0294-22-0128 FAX 0294-22-0120 ホームページ <https://www.hitachicci.or.jp/>

日立商工会議所 検索



# 第145回 通常議員総会を開催

## 》》 新年度の事業と予算を承認 《《



3月27日、当所で秋山会頭はじめ役員・議員103人(内委任状出席者58人)が出席して、新年度の事業と予算を決める通常議員総会を開催しました。

### 新時代で躍進

―地域と共に―

総会は、秋山会頭の挨拶(別記)、続いて3名の新議員と6名の来賓紹介を行い、小川春樹日立市長、白石敦日立市議会副議長から挨拶の後、議事に入りました。

審議では、令和6年度事業計画(案)、令和6年度一般会計収支予算(案)と中小企業相談所、法定台帳関係費、特定退職金共済、退職給与積立金の4つの特

別会計の収支予算(案)、令和6年度借入限度額(案)決定の件を順次審議し、原案通り承認しました。

「新時代で躍進―地域と共に―」をスローガンに掲げ、地域事業者の経営支援部会・委員会活動の活性化、運営基盤の強化を重点活動方針として、地域事業者の持続的経営支援と企業のデジタル化、人材育成等支援、これに従来の事業を組み合わせて事業を展開します。これらの事業執行に伴う予算は、6億3千6百万円です。

### 第145回通常総会 秋山会頭挨拶 (要約)

コロナウイルスの制限緩和により、人の流れが活発になってまいりました。大企業的好決算、株高等、社会経済活動が堅調に回復へ動き出している状況は大変喜ばしいことと思っております。一方で、地方や中小・小規模企業は、エネルギーや原材料価格の高騰、コスト増加分の価格転嫁が進まず、人手不足や賃上げといった課題等、依然厳しい経営環境にあります。安定した物価や賃金の上昇、株高の恩恵が地域と中小企業へ広く波及し、実体経済に反映されることを期待致します。

日立市では、昨年4月「日立さくらまつり」が4年ぶりに開催され、秋の産業祭とあわせて、多くの方に楽しんでいただきました。今秋は、待望のフルマラソン大会、日立シーサイドマラソンの開催が予定されており、長い海岸線や日立アルプスなど自然の豊かさを感じていただく絶好の機会であり、当市観光の魅力発信に努めてまいりたいと思っております。

オープン以来、若い人達や子供さんも多く見られ、来客者数も業績も順調とお聞きしております。さらに、日立市と大手企業による「次世代未来都市プロジェクト」が決定し、ものづくりの多様性や高度化がさらに進み、中小企業がともに成長していけたら何よりと考えております。あらためて日立市役所、日立市議会の皆様のご決断とご尽力に敬意を表しますとともに、引き続き一緒に進んでまいりたいと存じます。

日立商工会議所の事業運営につきましては、コロナの影響を受けつつも、概ね当初の計画を実施できたものと考えております。商工会議所の基本の業務であります、金融、税務、補助金申請の伴走支援等、経営相談には、今後も地域企業の発展と振興を念頭に、力を入れて取り組んでまいります。また、部会、委員会を軸に、デジタル化や人材育成、脱炭素化に向けた研究を進め、地域経済の活性化を図ってまいります。

ますます活気ある日立市となりますよう、会員の皆さま、本日ご参会の皆さまとの連携を強化し、共々努力を続け、この局面を乗り切ってまいりたいと存じますので、一層のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

アクサ生命は商工会議所と協力して健康経営を推進しています。



## 健康経営に取り組みませんか?

健康経営は、アクサ生命がサポートします!

健康経営優良法人認定の申請までサポート

お問合せ先

アクサ生命保険株式会社

日立営業所 ☎ 0294-21-5387

※「健康経営」はNPO法人健康経営研究会の登録商標です。

# 令和6年度 主要事業のポイントと予算

令和6年度スローガン

## 新時代で躍進 - 地域と共に -

3つの重点事項

### 1 地域事業者の経営支援

《主な取組み》

- (1) 地域事業者の持続的経営支援推進
- (2) 中小企業相談所機能の強化
- (3) 企業のデジタル化、人材育成等支援
- (4) 公的融資・補助制度の利用啓発
- (5) 事業承継・創業の支援強化



### 2 部会・委員会活動の活発化

《主な取組み》

- ◆商業部会：消費環境変化への対応促進、新たな消費機会の創出
  - ◆工業部会：変化する環境に対する情報提供と共有、部会員交流推進
  - ◆建設部会：労働環境の課題研究・情報提供、最新技術・工法等の研究推進
  - ◆金融財務部会：制度改正等の専門的情報提供推進、業界課題の共有化促進
  - ◆観光環衛部会：消費拡大・賑わい創出事業の実施、業界課題解決に向けた関連機関等との連携
  - ◆交通運輸部会：共通課題に対する情報提供事業の推進、部会員の交流促進
  - ◆文化産業部会：部会員の情報交換、交流推進
  - ◇運営委員会：組織財政基盤強化に関する研究、地域要望事項の検討
  - ◇会員サービス委員会：会員交流事業の実施・健康経営取組支援、各種検定事業の普及啓発
  - ◇産業振興対策委員会：地域産業振興に向けた取組策の研究、提言活動の推進
  - ◇情報化委員会：会員並びに市民に対しての情報発信の調査研究
  - ◇観光委員会：観光資源魅力向上の研究、関連団体等との連携強化
- 部会・委員会連携事業：部会・委員会の連携による産業活性化に向けた事業の推進

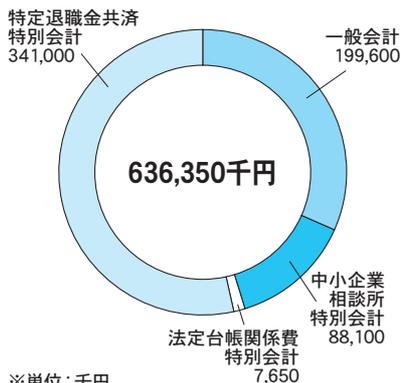


### 3 運営基盤の強化

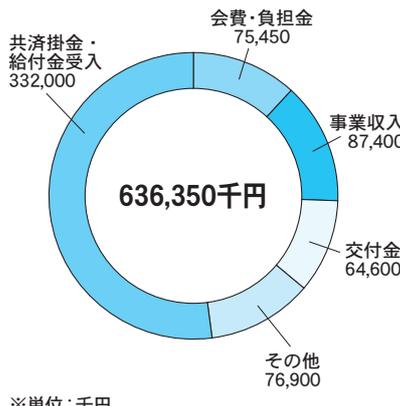
《主な取組み》

- (1) 組織・財政基盤の強化
- (2) 提言・要望活動の推進
- (3) 関係機関との連携強化
- (4) 女性会、青年部活動支援

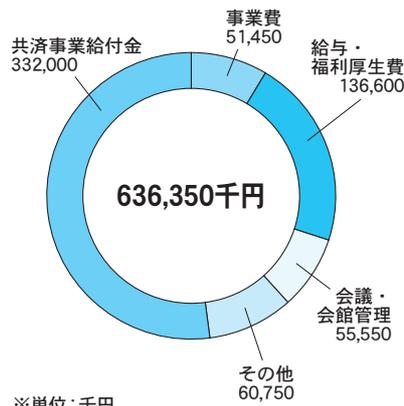
#### 令和6年度収支予算総括表



#### 令和6年度収入総予算額



#### 令和6年度支出総予算額





### 3月の常議員会

3月13日、常議員会を開催しました。協議事項として、2月の新入会員(別記)、第145回通常議員総会に付議する議案、令和6年度経営安定特別相談室「商工調停士」委嘱案を承認、報告事項では、武士工業部会長から視察研修について(別記)、白土会員サービ

ス委員長から令和5年度

会員交流会について、青年部、中山組織活性化委員長から第9回常陸ノ国グルメフェスの開催報告がありました。

### 新入会員紹介 (別記)

- 砂沢町1035-1  
有限会社ムトウ建築工業 (建設業)
- 宮田町4-4-43  
理容スパル(理容業)
- 千石町1-4-24-1F  
株式会社ユーシン(飲食業)
- 助川町2-9-9  
isakafuro.café (飲食業)
- 宮田町3-8-14  
すけつく(飲食業)
- 大みか町2-23-8-1F  
プチグレーヌ(飲食業)
- 日高町1-24-4-A  
有限会社櫻井自動車整備工場(自動車整備業)
- 桜川町1-5-16  
Beauty salon
- Fine 大みか店(エステ業)
- 大みか町1-8-8-101

## 工業部会 株式会社日立ハイテク マリンサイト (ひたちなか市) を視察

2月28日、工業部会は日立地区産業支援センターと共催で、視察を行いました。マリンサイトは、2021年3月に竣工した新工場で、IoTを活用した最新鋭のスマートファクトリーです。部材の自動搬送やリモート調整の導入により一部の工程を自動化・無人化しており、また再生可能エネルギーによる運営でCO2排出ゼロ、脱炭素を実現しています。工業部会では、DX推進による安定した効率の高い生産体制と脱炭素の実現について学び、中小企業の持続的な経営に資する目的で企画しました。武士部会長は「我々中小企業が明日からすべて真似できるというものではないが、最先端の工場視察で、できることは何か、何をすればよいかを考える手掛かりになり得るので、参加いただいた皆様にはぜひ今後に活かしてほしい」と話しました。



## 令和6年度事務局体制



専務理事 鈴木 昇
理事・事務局長 根本 伸一

総務部	
部長 鈴木 聡司	
総務課	会員サービス並びに工業課
課長 山口 和子	課長 四倉 佳子
課長代理 鈴木 均	山田 芳靖
課長代理 大場 沙織	菌部 政輝
大森友梨香	P T 宮本 明美
	P T 五十嵐明美

中小企業相談所	
所長 根本 伸一	
商業観光課	経営支援課
課長 橋本 正大	課長 谷中 信一
根本 康寛	主任 根本 可奈
小松 麻子	山形 奈々
	渡部 真尋
	P T 樫村 博子

## 日立商工会議所の動き **3月**

3月1日 確定申告無料相談  
(他10日・4・5・6・7・8・11・12・  
13・14・15日)  
3月5日 正副会頭会議  
3月11日 無料法律相談  
3月13日 正副会頭と部会長・委員長会議  
常議員会

3月19日 大型店立地問題協議会  
3月26日 商業部会賑わいフェスプロジェクト会議  
3月27日 第145回通常議員総会  
3月28日 工業部会 情報・啓発グループ幹事会  
3月29日 工業部会 人材確保・育成グループ幹事会  
3月31日 商業部会 常陸ノ国フリーマーケット

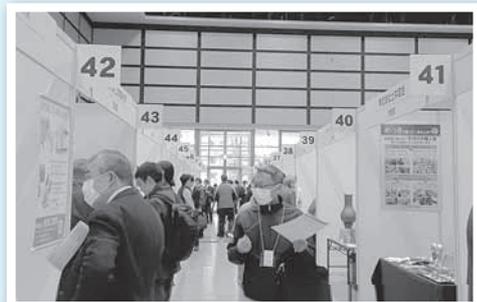
### 昨年の申告を終え、心持ち新たに

当所は、3月1日から所得税申告期限の15日まで、毎年恒例の確定申告無料相談を行いました。今年も260会員が相談に訪れ、税理士の確認のもと申告書を作成しました。昨年10月からのインボイス制度の開始で、初めて消費税申告に戸惑う事業者も多く、2割特例を活用しての申告書作成や、インボイス制度について、税理士に対応策の確認をする姿が見られました。



### 工業系商談会で、新規取引先を開拓

3月8日、東京商工会議所主催の「ザ・商談! しごと発掘市」が開催され、工業部会から3社が参加しました。商談会では、事前に具体的な発注案件が示され、受注希望企業が商談の申し込みを行う、完全事前予約制で、発注企業39社、受注希望115社、297件の商談が行われました。参加者は『今まで取引のない業種や取引先との繋がりが持てる』と、新規販路開拓に活用しています。



## さくらまつりプレイベントで賑わい

3月31日、市内外41店舗による第9回常陸ノ国グルメフェス(青年部主催)、29店舗による常陸ノ国フリーマーケット(商業部会主催)を開催しました。グルメフェスは県内のご当地グルメで地域を元気にしようと始まったイベントで、会場内で食べたメニューから気に入った一品に投票するシステム。今年グランプリを獲得したのは、『まぜそば専門店MOG』のまぜそばでした。また特別賞として日立市内で1位の『PokaPoka』、日立市外で1位の『しらすのお店にんべんいち』が受賞しました。



まぜそば専門店MOGのまぜそば



フリーマーケット



グルメフェス



飽和状態である森林を未来へ繋ぐ方法として、地域材の利用促進を掲げる

日立商工会議所は、新技術開発や独自の技術革新、経営手法等が関係省庁並びに業界団体に認められ、高い評価を得られた会員事業所への表彰を行っています。今月号では、昨年当所で優良会員として表彰しました株式会社八千代商事を紹介します。

木材と住宅資材の卸売業等を営む八千代商事は、近年、今後の経営環境を見据え、新しい商品の開発や従来の事業の見直しなどに積極的に取組んでいます。

それらの取組みは、日立市ゼロカーボンアクション（令和4年度）を受賞した他、県北ビジネスチャレンジプログラム（県北BCP）において、茨城県知事賞を受賞しています。

## 工業都市・日立のまちなかに『森』をつくる 地域の異業種と協働し新事業を創造する「八千代の森」



株式会社八千代商事 福地秀太郎さんと美喜さん



県北BCPアイデアソンで茨城県知事賞を受賞。



創業68年と長く地域で事業を営み、職業探検少年団他、地域貢献にも積極的に関わる。地域振興とCO<sub>2</sub>削減を視野にいたった革新的な取組みで、令和5年度優良会員表彰受賞。

〔事業所名〕  
株式会社 八千代商事

〔電話〕  
0294-22-8448

〔代表取締役〕 福地 秀太郎  
※現在社屋建直しのため、旭町に移転中です。  
(仮事務所：S.P.エンジニアリング(株)社屋内)



ホームページ

株式会社  
八千代商事

日立市若葉町

### 「八千代の森」

#### プロジェクトの始動

取引先工務店の廃業、売上減少等で卸売業として危機感をもって新規事業を模索してきたという(株)八千代商事では、新規事業開拓を副社長の福地美喜さんが担当しています。美喜さんは創業の原点である木材を活用してプロダクト開発を行い、2022年度県北ビジネスチャレンジプログラム（県北BCP）に参加。

県北BCPは、新規事業を開発し、将来的な雇用創出を目的に行われる事業で、新規事業を立ち上げた中小企業が「リーダー」として参加、「チャレンジャー」の学生や企業関係者等と「アイデアソン」と

呼ばれる手法を用いて、半年をかけたビジネスプランを策定します。(株)八千代商事では、茨城県産間伐材の活用事業、森林体験事業、オフィスの木質化リノベーション事業の3本を策定しました。

同時期に、県の副業プロジェクト（IBARAKICK）にも参画し、2名の副業人材を受入れました。都市部の人材は会社を辞めず、週末だけ、リモート等の多様な働き方で、自分の経験やスキルを副業に活かし、受入企業ではそのスキルを活用しているという取組みです。

副業人材と共に、営業コストの削減（約3カ月で約1000万円）を行い、茨城県材を使用した新社屋の設計に着手。新規事業と合わせ新社屋「八千代の森」プロジェクトが始動しました。「茨城県材の活用」、「脱